第７章 歴史文化保存活用区域の設定

１．設定の考え方

（１）歴史文化保存活用区域とは

歴史文化資源が特定地域に集中している場合に，歴史文化資源と一体となって価値を形成する周辺環境も含め，当該歴史文化資源（群）を核として文化的な空間を創り出すためのエリアとして定めることが望ましい区域を歴史文化保存区域として設定する。

（２）歴史文化保存活用区域の意義

本市の特色を示す関連文化財群を一つのまとまりある空間として区域を設定することにより，市民が本市の歴史文化をより深く理解することができる。

歴史的･地域的関連性に基づき一体的に捉えるべき区域をあらかじめ定めることにより都市計画や景観計画等の市の計画を策定する際の基本的な情報となり，歴史文化を活かしたまちづくりを進めることができる。

面的な広がりを設定することにより，周辺環境を含め歴史文化資源の一体的な保存･活用を図りやすくする。

（３）歴史文化保存活用区域の考え方

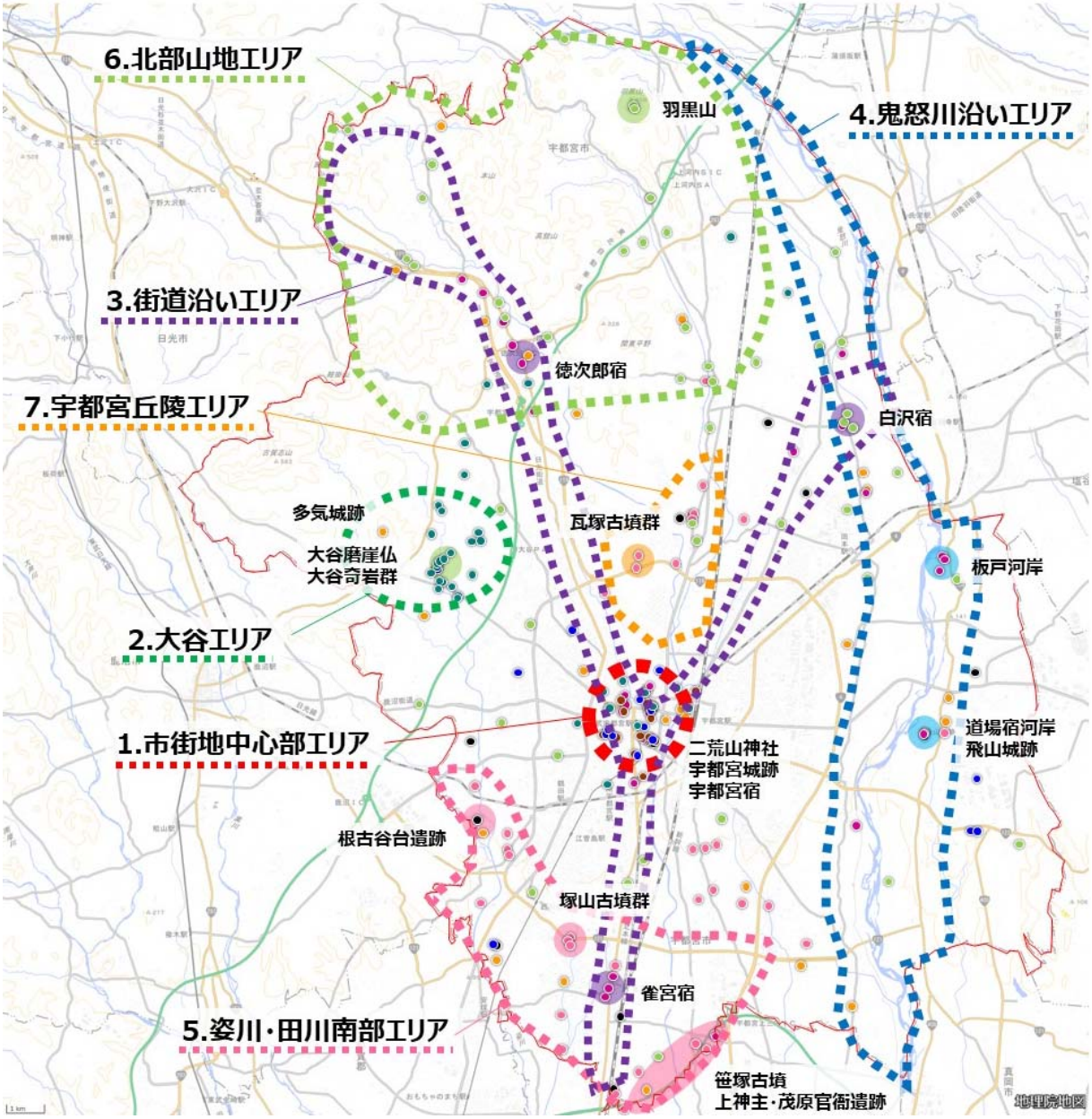
①複数のストーリー(関連文化財群)の構成資源が集中して存在している区域
②指定文化財等，本市の歴史文化を語るうえで核となる歴史文化資源が所在する区域
③周辺環境と深い関連性をもって，資源が集積･連担している区域
④景観計画において，宇都宮を代表する誇れる景観として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている区域

２．保存活用区域

歴史保存活用区域の考え方に基づき，次の7つのエリアを保存活用区域として設定した。

保存活用区域	設定の理由	主なストーリー
(1)市街地中心部エリア	・宇都宮丘陵の突端部分という持徴的な地形をもち，中世以降，二荒山神社と宇都宮城が相対して発展してきたまちの歴史が垣間見える ・8 つのストーリーのうち，6 つのストーリーに含まれる資源が集積している ・二荒山神社，宇都宮城址，松が峰教会など，核となる資源がある ・未指定の石蔵が多く集積し，価値認織の共有，早急な保護，さらなる利活用が求められている ・景観計画において，「まちのシンボル景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<2>文武に秀でた宇都宮氏の本拠地　うつのみや <6>徳川将軍も泊まった華やかな城下町　うつのみや <7>二度の戦災をたくましく生き抜いたまち　うつのみや
(2)大谷エリア	・採石場を中心とした石山の環境の中で育まれた歴史をみることができる ・大谷寺，奇岩群，石造建造物など，核となる資源がある ・大谷石を使用した文化に対する価値認識の共有，保護・活用が求められている ・景観計画において，大谷地区の景観は「個性ある景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<4>古代から現代まで大谷石がつくり繋いだ石のまち　うつのみや
(3)街道沿いエリア	・日光街道・奥州街道という歴史的な街道の宿場町として栄えてきた歴史をみることができる ・雀宮宿，白沢宿，徳次郎宿といった交通の核となる資源がある ・景観計画において日光街道の景観は「個性ある景観」として，白沢宿のまちなみは「郷土の景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<3> 2 つの街道の追分，水運の鬼怒川人・物・情報の交流拠点　うつのみや
(4)鬼怒川沿いエリア	・鬼怒川沿いという地理的条件を背景に発展してきた歴史をみることができる ・飛山城，板戸河岸といった水運にかかる資源が分布する ・景観計画において，鬼怒川の景観は「郷土の景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<3> 2 つの街道の追分，水運の鬼怒川人・物・情報の交流拠点　うつのみや
(5)姿川・田川南部エリア	・姿川，田川，鬼怒川に狭まれた台地に古代から人が住み続け，拠点を形成してきた歴史をみることができる ・多くの遺跡や古墳があり，原始から古代の資源が集積している ・景観計画において，田川・姿川の水景観は「郷土の景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<5>古代国家を支えた下毛野氏基盤の地　うつのみや
(6)北部山地エリア	・羽黒山神社梵天祭り，関白獅子舞，天棚など，羽黒山のある景観の中で培われた農村の伝統文化が強く残っている区域 ・日光東照宮をはじめとする二社一寺との繋がりが強く，祭礼付祭屋台などの伝統文化が残る地域 ・同じ流派の獅子舞が分布する範囲 ・景観計画において，羽黒山の杜は「郷土の景観」として景観形成重点地区の候補地域に掲げられている。	<8>農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地　うつのみや
(7)宇都宮丘陵エリア	・宇都宮丘陵上に展開した古墳文化が強く残っている区域 ・瓦塚古墳群，北山古墳群，大塚古墳，長岡百穴古墳など	<5>古代国家を支えた下毛野氏基盤の地　うつのみや

■歴史文化保存活用区域



- ①今も昔も住みやすい関東平野の里山都市　うつのみや
- ②文武に秀でた宇都宮氏の本拠地　うつのみや
- ③２つの街道の追分，水運の鬼怒川　人・物・情報の交流拠点　うつのみや
- ④古代から現代まで　大谷石がつくり繋いだ石のまち　うつのみや
- ⑤古代国家を支えた下毛野氏基盤の地　うつのみや
- ⑥徳川将軍も泊まった華やかな城下町　うつのみや
- ⑦二度の戦災をたくましく生き抜いたまち　うつのみや
- ⑧農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地　うつのみや

３．保存活用の方向性

前節で設定した保存活用区域は，当該区域内に所在する歴史文化資源を核として，文化的な空間を創り出すためのエリアである。本節では，文化的な空間の創出のため，保存活用区域ごとの保存活用の方向性のほか，核となる歴史文化資源の保存活用の方向性や現段階で想定される空間形成に必要な視点を示す。

（１）市街地中心部エリア

市の中心部に位置する二荒山神社と宇都宮城を中心とする門前町，城下町の繁栄を今に伝える神社仏閣や歴史的な街並みなどの特色ある空間を継承しながら，有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①まちなかにおける情報発信機能の充実

まちなかの歴史文化資源を快適に周遊できるように，まち歩きマップの作成や文化財表示板･誘導標の充実など，周遊環境の整備を促進するとともに，都市観光のエントランス機能を有するまちなか歴史文化情報交流拠点について，2022 年の栃木国体などを見据え検討を進め，効果的な情報発信機能の充実を図る。

②宇都宮城址公園の効果的な活用

清明館･まちあるき情報館･ものしり館の展示を定期的に展示替えしたり，時宜を得た企画展示をしたりするなど，魅力ある展示を心掛けるとともに，将軍が泊まった御成御殿の再現をARなどのICTを使って臨場感を味わえるよう工夫するなど，観光客などの来園者にとってより魅力ある仕掛け作りに取り組む。

③城下に残る古文書の調査研究・保存活用

城下に残る近世～近代にかけての古文書の悉皆調査を行い，その実態を把握するとともに，それらの保存活用の在り方について検討する。

④大谷石建造物の積極的な活用推進と特徴ある景観づくりの推進

市内に多く残る大谷石建造物は本市の景観を特徴付ける資源であり，古くからの市街地である中心市街地にも多くの大谷石建造物が残っている。これらの建造物を中心市街地の活性化や本市独自の景観形成の推進のために，活用していくことは大きな課題である。まちづくり推進機構によるマッチング事業などの既存事業の促進と併せ，中心市街地における大谷石建造物の利活用の推進に向けて，検討を進める。

⑤近代以降の建造物の保存活用

宇都宮の歴史にとって欠くことのできない二荒山神社の社殿の指定に向けて取り組むとともに，第14師団の将校等が建てた近代洋館風の建物等の保存活用のあり方について検討を進める。

⑥八幡山の特殊地下壕の継続的な公開検討

八幡山の地下に戦争末期に掘られた大規模な地下壕は，太平洋戦争の歴史を語る貴重な資料であることから，その保存公開のあり方について検討し，市民に対し適切な公開に努める。

⑦旭町の大いちょうの安全対策

太平洋戦争後に市民の復興のシンボルとなり，市の木がイチョウである由来でもある大いちょうの枝落下等による通行人等への被害を未然に防ぐため，関係課と調整を行い，対策を講じる。

（2）大谷エリア

宇都宮の大谷石文化を語る上でその中心となる自然と人工的に造りだされた独特な景観を，一体の区域として継承しながら，有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①大谷地区の歴史文化資源を紹介・案内する機能を有するビジターセンターの整備

大谷地区の観光拠点化を推進するにあたり，来訪者に所在する歴史文化資源を余すところなく紹介するとともに，そこを拠点とし，来訪者にその魅力を十分に知ってもらうためのガイドの出発点としてのビジターセンターを整備する。

②大谷地区内の歴史文化資源を周遊するための案内板等の整備

大谷地区内の歴史文化資源を周遊するにあたり，それぞれの歴史文化資源の案内誘導板の設置や各歴史文化資源の説明版等，既存の案内板では不十分な部分について補足充実をさせる。

③旧大谷公会堂の保存活用の推進

大谷地区において代表的な大谷石建造物である旧大谷公会堂の保存活用事業を推進し，大谷地区の歴史を物語る歴史文化資源として，来訪者が見学できるよう整備するとともに，観光拠点施設への活用を図る。

④大谷の歴史文化資源をガイドする人材の育成

大谷を訪れる観光客などに対し，各歴史文化資源をわかりやすく案内できるボランティアガイドや特殊な見学地を案内できる有償ボランティアなど，様々なニーズに対応できるようなガイドの人材育成を推進する。

⑤大谷地区の重要文化的景観選定に向けた取組

大谷地区の自然と人間との相互作用によって生み出された文化的な景観を将来的に守り伝えるために，景観形成重点地区の指定に合わせて，重要文化的景観の選定に向けた取組を進める。

⑥多気城跡の保存活用に向けた検討

関東最大級の山城と言われ，宇都宮氏が一時期本拠とした多気城跡を良好な状態で後世に伝えるための保存の在り方と，その歴史的価値を多くの人々に周知するための公開の在り方等について検討を進める。

⑦大谷石建造物が集まる歴史的な町並みの保全

大谷エリア以外にも西根地区･上田地区･芦沼地区など市内全域に，本市の特色となる大谷石建造物群が所在し，歴史的な町並みを形成する地区が見られることから，関係課と連携し，それらの町並みの保全のあり方についても検討を進める。

（3）街道沿いエリア

中世の奥大道，近世の日光道中，奥州道中が通り，交通の要衝として栄えた町の名残を継承しながら，宿や街道沿いに残る有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①雀宮宿における芦谷家の保存活用

雀宮宿の面影を残す唯一の建造物である仮本陣芦谷家を認定建造物として認定することにより，将来的な保存を図る。

②徳次郎・石那田地区の伝統文化の保存継承への継続的支援

徳次郎や石那田地区に残る屋台等を使った伝統行事を継承するために，後継者育成等の継続的な支援を行う。

③智賀都神社のけやきの保存

樹齢 700 年の智賀都神社のけやきは，日光街道に面する県指定の天然記念物であり，国道への枝の落下などの安全対策など保全の在り方について，県教育委員会と連携し検討を行う。

④白沢宿の景観保全の推進

白沢宿のまちなみは歴史的な趣や緑豊かな伝統が感じられる宿場町の風景を創出していることから，景観形成重点地区となっており，今後もその景観保全に取り組んでいく。

⑤日光道中・奥州道中の追分の景観保全に関する検討

宇都宮は，江戸時代の五街道の内2つの街道が通り分岐した全国でも珍しい場所であることから，その景観の保全の検討を行う。

（4）鬼怒川沿いエリア

宇都宮市内を流れる一番大きな川で，近世には河岸が発達し，河川交通の要衝として栄えた名残を継承しながら，河川沿いに残る有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①国指定史跡飛山城跡及び周辺文化財の活用促進

2022年のLRTの開通を見据え，飛山城跡周辺に点在する文化財を周遊できるよう案内板やマップなどの整備に取り組み，指定管理者である飛山城跡愛護会と連携し，飛山城史跡公園の更なる活用を図る。

②製糸工場「大嶋商舎」の再評価及び周知啓発

世界遺産となった富岡製糸工場よりも早く操業を始めていた製糸工場「大嶋商舎」を再評価し，市民等に対し，周知啓発を図る。

③河岸関連文書の調査・保存

板戸の河岸問屋であった坂本家に保管されている江戸時代の河岸の様子を窺うことができる文書等の河岸に関する文献調査やその保存に関する支援を行う。

（5）姿川・田川南部エリア

原始から古代にかけて全国的にも重要な国指定史跡や県指定史跡が点在する地区であり，その景観を継承しながら，有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①国指定史跡根古谷台遺跡の更なる活用

日本を代表する縄文時代の遺跡である根古谷台遺跡は，「遺跡の広場」として整備されて以来 27 年が経過し，施設の老朽化が進んでいることから，計画的な修繕に取り組む。また，現在，指定管理による史跡の維持管理を行っている西山文化財愛護会が高齢化していることから，今後の管理運営の在り方について検討を進める。

②県指定史跡笹塚古墳，塚山古墳の保存活用

笹塚古墳と塚山古墳は栃木県を代表する宇都宮市内に所在する古墳である。笹塚古墳は墳丘部分が県指定史跡となっているが，周堀部分が未指定であり，現時点で開発から未指定部分の保護を図る手立てがなく，塚山古墳も県指定史跡であるが，所有者の努力によりきれいに整備され維持管理されている状況である。両古墳とも個人所有であることから，今後の保存活用や支援の在り方について検討を進める。

③国指定史跡上神主・茂原官衙遺跡の保存活用

上三川町と宇都宮市にまたがる上神主・茂原官衙遺跡は国指定となり恒久的な保存が図られているが，今後は，この史跡の魅力をよりわかりやすく，市民が活用できるよう，上三川町と連携して取組を進める。また，上神主茂原官衙遺跡出土の文字瓦は古代の人名がわかる貴重な資料であることから，その評価を確定するための調査研究を進める。

（6）北部山地エリア

羽黒山・高舘山・本山などの北部山地を背景に，獅子舞・屋台・天祭などの伝統文化が今に残り継承されている地区であり，有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①伝統文化の継承支援

関白獅子舞や天祭などの伝統文化に携わる後継者が不足していることから，その後継者育成のための支援を今後も継続して行う。

また，篠井地区・富屋地区は，昔から日光東照宮をはじめとする二社一寺との繋がりが強く，祭礼付祭屋台や農業に関する祭事などの伝統文化が残る地域であることから，その継承に向けての支援について継続して行う。

②上河内民俗資料館の更なる活用

伝統文化や民俗文化財の周知啓発事業の核となる上河内民俗資料館における企画展示や体験学習を充実させ，更なる活用を図る。

（7）宇都宮丘陵エリア

宇都宮丘陵上に展開する古墳や瓦窯跡などの多くの遺跡が残る地区であり，有形無形の文化財とその周辺環境を含め，一体的に保存活用していく。

①まほろばの道の活用

長岡百穴や瓦塚古墳群等の宇都宮北部丘陵上に所在する古墳を結ぶまほろばの道を活用し，地域や学校と連携しながら，宇都宮の古墳文化の周知啓発を図る。

②近代水道遺産の保存活用

戸祭配水場排水池（戸祭配水場調整池）は，1916 年の通水以来，今日まで給水を続ける配水場であり，本市における水道事業の沿革を物語る資源として，保存活用の検討を行う。